

# 農業農村整備事業優良事例地区の紹介

## 豊かな自然環境を生かし地場産米のブランド化を推進！ 門崎地区（一関市川崎町）

■岩手県農林水産部農村計画課・農村建設課

岩手県では、米の生産コスト低減に向けた水田の大区画化と担い手の経営規模拡大に向けた農地利用集積を一体的に進めるため、ほ場整備事業を推進しています。

ほ場整備地区では、地域の「特徴」を「資源」と捉え、事業をきっかけに、地域の強みを生かした作物の導入や農産物の加工等の取組が数多く展開されています。

本稿では、豊かな自然環境を生かし、米のブランド化に取り組んでいる事例を紹介します。

### 取組のきっかけ

門崎（かんざき）地区は、一関市川崎町の北西部に位置し、一級河川砂鉄川の両岸に拓けた約64haの水田地帯です。整備前の水田は10aと小さく、農作業効率の改善が大きな課題になっていました。そこで、農業生産の効率化と生産コスト低減を図るために、平成16年からほ場整備事業を導入することとなりました。

門崎地区には、全国的に生息数が激減し、絶滅危惧種に指定されているメダカが多数生息していることから、メダカの生息環境の保全に配慮し事業を進めることとしました。メダカの生息環境の保全の取組は、県内ではほとんど事例が無かったため、岩手大学

農学部との協力を得ながら、事業を進めました。

### 農事組合法人の立ち上げ

門崎地区の大きな課題は、他の地域と同様に、農業者の高齢化と後継者不足でした。

平成19年に地区内の農地利用調整を行う『門崎地区農地管理組合』を設立。地域の担い手個々に農地を分配し、営農を進めることとしました。

その後、農業経営の更なる安定を図るため、平成25年に6名の担い手が「めだか・ホタルの棲む豊かな環境の保全」、「農業担い手の育成」、「食と共に環境を守る」を経営理念に掲げ『農事組合法人門崎ファーム』（以下、法人という）を設立しました。



田植えイベントの様子



イベント集合写真

## メダカとの共生に向けて

メダカは春の水張り時、水路から水田へ入り、苗に卵を産み付けて繁殖します。秋の落水期には、水路に戻り越冬することから、その生態は稲作活動と密接に関係しています。この生態を保全するべく「メダカ水路」や「ビオトープ」等の施設の設計・整備を、岩手大学農学部との協力を得て行いました。

また、法人は、事業で整備した「ビオトープ」や「メダカ水路」の観察、水田での田植えや稲刈り等のイベント、門崎地区の豊かな自然環境や食文化を存分に満喫してもらうツアーを、市や岩手大学農学部とともに実施しています。首都圏からも参加があり、イベントを通じて地域外の方々との交流にも積極的に取り組んでおり、観光客の誘致に繋

が  
て  
い  
ま  
す。



稲刈りのイベントの様子

## ブランド化に向けた取組

更に、メダカ水路に繋がる水田で収穫された特別栽培米を「門崎めだか米」、その周囲はホテルの生息域でもあることから、そこで収穫したお米を「門崎ホテル米」と命名。刈取り後は、自然乾燥に近い常温除湿乾燥システムの活用や準低温倉庫（15℃～16℃）での保管による品質確保にも取り組み、販路は今や奈良県にまで拡大しています。

加えて、地域のブランド牛

である「いわて門崎丑」を生産し、首都圏で焼肉レストランを経営する株式会社門崎に、「門崎めだか米」の供給をしているほか、地元の酒蔵である磐乃井酒造では、法人が栽培した酒米による日本酒の製造・販売に取り組む等、地域全体で多岐にわたった販売展開が進められています。

県では引き続き、ほ場整備事業を契機として、地域の強みを生かした地域活性化の取組を支援していきます。



首都圏へも積極的に出店、PR、販売  
(いわて銀河プラザ)



門崎めだか米 門崎ホテル米  
販売パッケージ



門崎地区の酒米で仕込んだ  
日本酒「玄会（くろえ）」

●このページに関するお問い合わせ

岩手県農林水産部農村計画課・農村建設課 Tel 019-629-5666 Fax 019-629-5679 E-mail: AF0006@pr.ef.iwate.jp